



# 全国連合退職校長会

# 会報



巻頭言

## 教育再生と教育の日

副会長(九州) 池田 大洋

三陽景運開く甲午歳の立春雑祭を迎え梅花桃花春風に香る日々  
に慶意を表します。

さて、国においては、教育再生に、安全・安心な教育環境に、世界にはばたくチームジャパンに、関心が注がれています。

教育再生は経済再生と同様、国の最重要課題であります。

教育は個人個人の能力を最大限に引き出して互いに認め合い社会に貢献し自己実現を図ることにあります。個人及び社会の発展の礎となる未来に向けた営みで国の根幹を形作る政策として教育の再生に取り組んでいます。

安全・安心な教育環境では、いじめ・体罰等の課題への対応、東日本大震災の教訓より教育施設の耐震化、防災教育の推進、子供たちを守り安全・安心な環境での教育の推進、さらに、学校・家庭・地域の連携による社会総がかりの体制・推進が大事です。

世界にはばたくチームジャパンではロンドン大会の感動と活躍、東京オリンピック招致実現のよるこび、閣僚会議、国会決議と準備進展に全力疾走。役員・選手は勿論のこと、国ぐるみの人間性あふれるチームジャパンの強いオリンピックを熱望します。

以上の現状のほか、第2期教育振興基本計画が本年度中央教育審議会で検討され、6月に基本計画が閣議決定されました。このことについて、今後実施すべきことは、第1期の目指すべき姿の達成と同時に、第2期の教育の再生に向けた次の4つの基本的方向性の施策を推進しなければなりません。

◎未来への飛躍を実現する人材の養成  
◎学びのセイフティネットの構築  
◎絆づくりと活力あるコミュニティの形成  
この施策実現のために示された成果目標と基本施策を基に、各

### 〔目次〕

- P 2…提言
- P 3…地区連絡協議会(中国・近畿・東海北陸)
- P 4…都道府県だより(秋田・宮城・長野・富山・愛媛・熊本・沖縄)
- P 8…都・若手教員研修会
- P 9…超高齢社会における社会保障の行方は
- P 10…中教審傍聴報告
- P 11…26年度文部科学関係予算案
- P 12…地方の会報紙より
- P 16…五反田だより・編集後記

県教委は、施策立案に努力する。本年度の全連退本部は、すでに会報で周知されたとおり、文部科学省等への要望書を提出し、一定の回答を得たが、さらに、文科副大臣、政務官、衆議院文部科学委員会の各位へも要望書を持参し陳情した。

「教育の日」については10数年間盛り上がりつつあり、ここに全国統一念願成就を期し、県知事、県議会議員、県教育長、県教育委員長等の力を借りて、内閣総理大臣、衆参両議長、文部科学大臣へ、国としての「教育の日」の制定を強力に働きかけたい。  
教育尊重の気運爆発を目指し、会員皆様のお力添えとご指導をお願いいたします。



『絆』の更なる  
広がりを

副会長(関東甲信越) 清水章夫

元旦、リタイア以来続けている各新聞社の「社説」を通読しました。今年の論調は、アベノミクスと成長戦略、原発とエネルギー、集团的自衛権や首相の靖国神社参拝等々、山積する国民的課題の展開でした。論旨にはいつも通り大きな差異が読み取れましたが、奇しくも共通していたのが「どんな日本を目指すのか」でした。戦後、我が国政治・経済の在り方が今ほど問われたことはなかったと思います。教育もまた然りです。

その第一、「教育」はまさに抜本的改革の渦中にあります。

教育再生実行会議の諸提言を受けた中教審答申等の喫緊な教育課題には、全連退として国への適時・適切な意見具申等に鋭意取り組んでいます。同時に、教委改革という戦後教育制度の大転換や、教育が直面する道德教育教科化など、教育現場無視との切実な声も聞きます。

第二の、「福利厚生」は年金・医療等々厳しい時を迎えます。一昨年8月、一元化法成立で、共済年金は来年10月厚生年金に一元化されます。これに先行し昨年8月から追加費用(恩給制度適用期間の年金)が削減され、高齢会員は年金の10%削減に直面しました。また、持続可能な社会保障制度構築には、高齢者優遇から全世代対応への転換が不可欠といわれています。

「疾風に勁草を知る」。この危機克服に私たちは、連携の『絆』を更に強く広げ、明日を担う子供たちと自らの生き甲斐のため取り組む時と考えます。

友達やさんになる

副会長(東北) 鈴木信光

昨年の春先のことです。保育園から帰宅した3歳の孫が、一人で、園で体験してきたらしい「ごっこ遊び」を始めました。

「チリンチリン、ともだちやさんです。さびしいひとはいませんか? とものだちのほしいひとはいませんか?」

不意に聞こえてきた、それも3歳の男の子が言う「寂しい人はいませんか。友達やさんです」という言葉に、はっとしました。殊に、「寂しい人はいませんか」には、と胸を衝かれました。彼に尋ねると、「さびしくないように、ほぐが、おともだちをつくってあげます!」と言います。

この言葉から、子どもながらも友達やさんの意味するものと大震災・原発事故によって避難を強いられている会員への支援の問題とが、私の中ではつきり

とつながったのでした。

人とのつながりが希薄になりがちな避難先の生活では、寂しい人や独りぼっちの会員を一人でも減らすための大人の「友達やさん」が必要なのではないか。この友達やさんの役割こそが、現在の福島県公立学校退職校長会の存在意義ではないのか――。

この着想を県大会で披露し、多くの共感を頂きました。そして「双葉の灯を消さない」を合言葉に、自助・共助の心を大切にしたいワンコイン・サポーター事業をスタートさせることになりました。友達やさんの開店です。

昨年の本会報第187号の巻頭言で、杉山紘二副会長さんが東日本大震災被災3県の状況とさらなる復興を訴えておられます。

私たちの願いにもかかわらず、被災地の再建・復興はいっこうに加速されないうまま、また3月11日が巡ってきます。

## 五つの大切にしてほしい

秋田県会長 佐藤 重義

本会（会員1640名）は、各地区で特色ある地域活動・学校支援・研修会等を展開する10郡市退職校長会の連合体です。

本県では次の五つのことを大切にしています。

一つに、諸会合で必ず「県民歌」を歌うことです。「秀麗無比なる鳥海山よ、狂瀾吼え立つ男鹿半島よ：山水皆これ詩の國秋田」と高らかに歌います。

二つに、毎年度開催の全県研修大会の「講演」に学び、活動等に結びつくようにしていることです。例えば、昨年度の「フクシマは、今」講師・福島県車田喜宏会長（当時）の講演から、原発事故で同県退職校長会の運営が困難な状況にあることも知り、今年度の事業として、同会支援募金の実施があります。

三つに、同じく県研修大会における「発表」を参考に、会員各自が研鑽（生きがい）に努めるようにすることです。この発表は、二郡市輪番で、今年度は、潟上南秋田・渡部晟氏「化石と共に六〇年：」（一部学会誌掲載）と湯沢雄勝・阿部哲夫氏「湯沢ジオパークと私」で、毎年、多彩な内容となっています。

四つに、諸会に「懇親会」を設定することです。広域な本県にとつて、各郡市間・会員間の情報交換と親交を図ることが特に大事なこととなるからです。

五つに、各郡市において、「現職校長会との懇談会」を実施することです。これは、小・中学校学力状況調査全国連続上位を誇りとしながらも、本県の子ども達一人ひとりの未来に繋がる教育について、現職・退職校長が各郡市で一堂（現職60％・退職40～70％出席）に会し、具体的課題を討議・懇談することよつて、本会が学校現場のよき応援団であり続けていくということにあります。

### みやぎ教育の日推進大会

宮城県退職校長会

会長 杉山 紘二

教育に対する県民の意識を高め、家庭、地域社会及び学校が連携して本県教育の充実と発展を図るとともに、明日の宮城を担う子どもたちを育むため、みやぎ教育の日を設ける条例が平成17年3月に定められ、今年で10年目を迎える。

みやぎ教育の日の趣旨に賛同する30団体により「みやぎ教育の日推進協議会」を結成し、その中心となって活動しているのが宮城県退職校長会である。

昨年11月1日「みやぎ教育の日推進大会」が県教委との共催により、200名の参加者を得て開催された。

#### ○実践発表

宮城県丸森町立丸森中学校  
平成24年度キャリア教育推進連携で審査員特別賞を受賞

「東京で丸森の風ふがせつべ」

プロジェクトの取組み〜キャリア教育に係る実践事例〜  
三年生の修学旅行で町の特産品販売とPR活動を実施し、その体験を基に町への提言を行い、地域の活性化につながる活動となったとのこと。教育の日にふさわしい発表だった。

#### ○講演

宮城教育大学教職大学院教授 相澤 秀夫氏

「教育実践者としての誇りと責任を〜『まめやかさ』と『驚く心』そして『やさしさ』と」

大震災の避難所では中・高校生の方が見えた。「見える」は世界の教育のキーワードである。「見える」ためには必要最小限の知識・理解と見方、とらえ方の技術、そして洞察力と想像力等が求められる。

教育実践者の条件には、児童生徒に確かな力を付けること、ささやかな手立てや工夫、まめやかな営みを大切にすることであるとのこと。

感銘深い有意義な講演であった。

### 校長先生方へ

#### 激励のメッセージ

長野県 会長 高橋 基

長野県退職校長会は、ここ数年、教育現場の応援団でありたいを願いに掲げ、活動をしている。子育てに関わる学校は勿論のこと、家庭や地域へも範囲を広げ、応援活動を展開してきた。

ところが最近、いじめ・不登校・暴力等の問題に加え、県内では教職員の不祥事が頻発し、学校への信頼は失墜しつつある。問題の学校とか教職員は1%にも満たないごく一部のことであるが、たとい一部であろうと、許されない重大事件であることは間違いない。しかしそのために、全学校・全教職員が意気消沈していたのでは、もっと深刻な弊害や損失を招くことになる。

この時こそ、退職校長会は学校・教職員を絶対信頼している

ことを告げ、校長を中心に全職員で、やるべきこと、やりたいことを思い切つてやっていかれるよう、学校長宛に励ましのメッセージを送ることにした。

郵送ではない。各地区の役員が学校訪問をし、一人一人の校長に手渡すという活動を大事にした。顔を合わせ挨拶をする。同じ立場にあった者同士の率直な話が交わされる。そこには緊張と安堵の空気が流れた。

反響は大きい。自覚や感謝の電話や手紙が続々と寄せられた。心配をおかけして申し訳ないという気持ち、励ましの言葉や心遣いをいただいたことへの感謝、そして信頼回復に向けて全職員スクラムを組んで歩んでいきたい旨の決意が語られていた。

メッセージの手渡し活動は、一応の成果を納めた。しかしこれはあくまでも一過程であつて、26年度は、学校現場の願い・要望を受け止め、学校現場に役立つ具体的な支援をしていきたいと考えている。

活動状況

富山県退職校長会

会長 上田 清成

◇会員の絆を深める

県下を20地区と細かく分け、各地区から5〜6名の理事を選出することで組織の活性化と会員の所属感や連帯感を醸成するようにしている。

また、各地区理事の代表で組織する3委員会を設け、活動への意識や参加意欲を高めている。

●会報委員会

会報「高志路」を年三回発行している。会員の声や各委員会の活動報告等を掲載している。

●生涯学習委員会

様々な分野で活躍している会員の生涯学習事例等を紹介した「志を生きる」を発行し、お互いの活動の参考としている。

●特別委員会

教育諸課題についての検討や教育懇談会に向けての意見・要望等の取りまとめをしている。

◇教育懇談会の開催

●県教委との教育懇談会

毎年7月に「県教委との教育懇談会」を開催し、県教委の重点施策や本県教育の現状と課題について説明を受け、懇談を行っている。

●現職校長会との懇談会

毎年1月、小・中・高の校長会長と「学校教育の現状と課題及び学校支援活動」等について意見交換をし、次年度の活動に活かすようにしている。

◇創立五十周年に向けて

昭和40年に結成された本会は、会員相互の親睦と福祉の増進を図り、生涯学習の高揚を目指した各事業を行っており、平成27年に創立五十周年を迎える。現在会員数は約1500名である。今回の節目の年を迎えるに当たって、「創立五十周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、総務部、編集部、運営部を編成し、準備を進めている。

黄鳥倶楽部から

代表世話人 平岡 長治

愛媛県の退職校長会組織である黄鳥倶楽部（おうちようくらぶ）は、県内の高校と特別支援学校の校長経験者を会員としています。義務教育関係には、現役教職員と退職者で構成する「愛媛県教育会」という組織があり、職種及び現役・退職者の別を超えて充実した活動を行っておりまして、退職校長だけで組織する会はありません。全連退本部からは、愛媛県の小中学校退職校長も全連退に加盟してほしいとお話がありました。現在のところ退職校長会を新たに組織するには至っておりません。このようなことで、本県からは、250名程度の会員からなる黄鳥倶楽部のみが全連退に加盟している状況です。

黄鳥倶楽部の役員は、私たち年齢が低い者3名が世話人を務

めています。世話人とは、その言葉のとおり、下働きの会のお世話をする係で、代表世話人も「会長」といった性格ではありません。組織の重鎮としての会長がいないうちに、黄鳥倶楽部の元々の性格が表れているように思います。つまり、行政や教育界に積極的に働きかけた支援したりする会ではなく、親睦団体といった性格です。

会の総会は、5月と10月に年2回開催しています。5月の会には、例年県教育長をはじめ県教育委員会の幹部や県校長協会長がご出席いただいております。いへんありがたく思っています。また、年2回の総会時には、出席者、欠席者を問わず、全会員の近況報告をまとめて配布しています。会に出席していても、限られた時間の中で話ができる人はわずかですので、この近況報告は喜ばれており、総会資料として、欠席者にもお届けしています。活動の充実が、黄鳥倶楽部の今後の課題です。

## キラリ星のびらく

熊本県退職校長会

会長 中村 貞夫

熊本県退職校長会では、二百八十余の会員一人ひとりが、長年、教育界に携わってきたことに感謝と誇りを持ち、未来の教育を力強く支援することを目的に、「風格のある 存在感のある 実行力のある」活動を推進してきたところであります。

本部との連携のもと、県下13郡市等の退職校長会が、教育振興、福利厚生、調査研究、広報活動、組織強化の5部門で活発な活動を行っております。

例を挙げますと、教育行政や学校、PTA、地域等との密接な連携を図って、子供たちを学習や生活面で見守り支える活動に力を入れていきますし、統廃合等で消滅していく学校の記録やお宝を冊子やDVD等にして保存活用を図っていたりしています。4年前の熊本県退職校長会

創立40周年を記念して編纂した「熊本教育の人的遺産一〇〇」は、刊行当時から、大きな反響

がありましたが、今年度になっても、一般の読者から、記念誌で知った熊本教育に尽力した先達をもっと詳しく知りたいと問い合わせがありその裾野が広がっているところです。

「文教の府」熊本の未来に、きら星のごとく輝く指標になるものであります。これからも、県退職校長会として出来ることから、教育への協力・支援を行っていききたいと思えます。

一方、会員の高齢化や新会員の減少は、熊本県でも課題の一つです。会員のために、一層、魅力のある県退職校長会を目指していく必要を感じています。

そのためにも、年金や介護、福祉などの情報を的確に収集して研修会を行ったり、自らの生きがいや絆を深めるために趣味や特技を通したサークル活動等をさらに活発化したりしていきたいと思えます。

## 子らの健やかな 成長を願って

沖縄県退職校長会

会長 鳩間 用吉

沖縄県退職校長会は、結成26年目を迎え会員636名で、5つの地区校長会で構成されている。

本会は子どもたちの健やかな成長と幸せを願いつつ、本県教育の振興と発展に寄与することを方針の一つに掲げ活動している。

25年度は、沖縄県退職校長会にとって嬉しいことがあった。全国連合退職校長会の方針の下で取り組んでいる「教育の日」を、沖縄県が2014年に制定することを県議会で決議したことである。

本県の制定を受け「教育の日」を制定する自治体が増えるものと思う。

また、本会の事業の一つとして「善行児童生徒表彰」がある。この善行児童生徒の表彰は、25

年度で15回を数える。今回も県内5地区校長会から推薦された個人13名と7団体の子どもたちが表彰された。会長として、式辞で「これからも家庭・学校、勉強・運動・友達が大好きで、立派な児童生徒として成長してほしい」と激励した。受賞者代表も「いろいろなことに積極的

に取り組み、自分を高める努力をしたい」と抱負を語っていた。

この善行表彰では、これまで181名の個人表彰と53の団体表彰を行ってきた。地元の新聞も、毎年、この事業を取り上げ、社会的認知度も年々高まっている状況である。

表彰式における子どもたちの誇らしく嬉しそうな表情を見るにつけ、表彰を機に、子どもたちが更に成長することを願わずにはおれない。

沖縄県退職校長会は、これからも全国の仲間と連携し、しっかりとアイデンティティを確立できる子どもたちを側面から支援育んでいきたい。



中教審総会 傍聴報告

今後の地方教育行政の在り方について

教育課題答申委員会委員長 田中 昭光

中教審では、平成25年4月下村文部科学大臣より「今後の地方教育行政の在り方について」の諮問を受け、「教育制度分科会」（会長小川正人氏）を設置し25回に及ぶ審議を経て答申案をまとめ、12月13日に開かれた中教審総会で最終審議を行い、下村文部科学大臣に答申した。

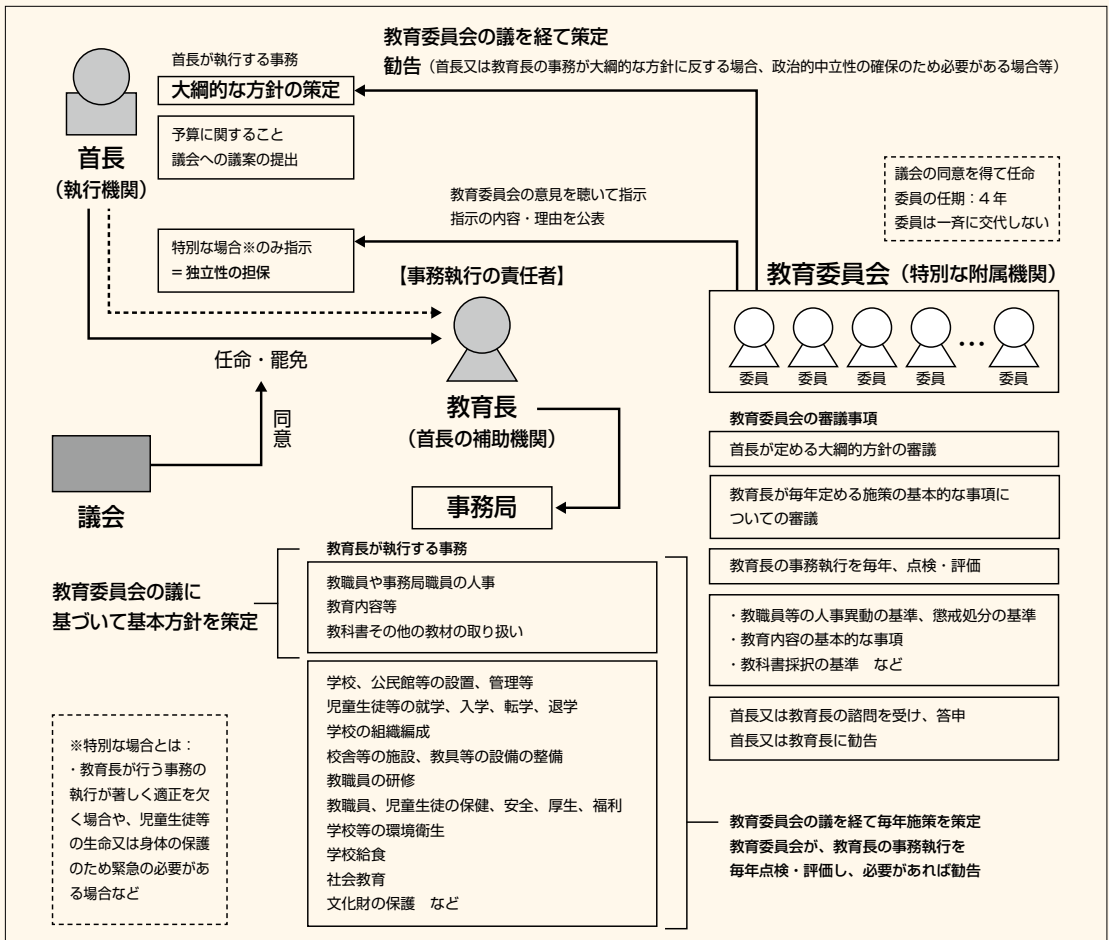
提出された答申の趣旨は

- 教育長を首長が直接任命し、首長の補助機関で、教育行政の事務執行責任者とする
- 教育委員会は特別な附属機関とし教育長の事務執行を第三者的立場からチェックする機関とする

但し、今回の答申では分科会において複数の委員から「首長が学校教育に介入しやすくなり、政治的中立性が保てない」との意見に配慮し、「従来の教育委員会制度を新たな執行機関として残す」という案も併記されており、答申としては異例である。

下村文部科学大臣は、「答申に示された方針に沿って法案を作成し、議会に提案し改革を進めたい」と回答された。

以下は教育委員会制度の改革案のイメージである。







## 「挨拶」の効果と力

小樽支部 大島 善明

(北海道退職校長会)

「退職校長会だより」第206号

小樽市の退職校長会では、小  
学校の通学路を巡回し、子ども  
達に挨拶や声かけをしながら通  
学の安全確保に努める「ふれあ  
い・サポート活動」を続けてい  
ます。

平成13年に起きた大阪教育大  
学附属池田小学校1・2年生8  
名殺害の惨事をはじめ、子ども  
の命にかかわる事件が各地で続  
発し、子ども達の生活環境が悪  
化の一途を辿ってきました。

以上の事を契機にして小樽市  
退職校長会は、子ども達の生活  
環境、特に通学路の安全をどう  
確保すべきかについて、自分達

のかかわり方や、その支援内容  
・方法を時間をかけて慎重に検  
討した結果、通学路を巡回し、  
子ども達に挨拶や声かけをしな  
がら安全確保に努める「ふれあ  
い・サポート活動」に取り組む  
事を決めました。

平成16年8月より開始した、  
ささやかな活動は、今年8月で  
8年を経過し、9年目に入りま  
した。

当初は、声をかけても挨拶し  
ても子ども達の反応は鈍かった  
です。その要因として、少子化・  
核家族化・家族の生活習慣の変化

・近所交際の希薄化等々が考え  
られますが、シャイなのか返事  
をしない子、無表情な子、口は  
動くが声にならない子などが多  
く、少々寂しい気がしました。

しかし、次第に会う回数も増  
え、顔馴染になると、少しずつ  
変化が見え始めました。最近で  
は元気に笑顔で挨拶する子が増  
えたように思います。

近くを通る中・高生達にも  
「久し振りだね」「元気そうだ  
ね」などと声をかけます。彼ら  
も懐かしそうな笑顔で挨拶して  
行きます。元気に通学し順調に  
成長している彼らの姿を見ると、  
頼もしく嬉しくなります。

また、父母・通勤者・近所の  
方などから「おはようございま  
す」「いつもご苦労様です」と  
声をかけて頂くようになり、地  
域の方々の理解を実感し、大変  
励みになっていきます。

朝の挨拶や声かけから初対面  
の人とも和やかな雰囲気や笑顔  
が生まれ親近感も湧いてきます。  
また挨拶を交わし合う時、皆穏  
やかで優しい表情になるから不  
思議です。一種の清涼感さえ漂  
う事もあります。挨拶や声かけ  
が爽やかな人間関係をづくり出  
している事を実感できます。

この活動を通じ再認識できた  
事は、何気なく始まった挨拶や  
声かけが意外な効果を生み出し、

人間関係を疎通させる力になつたと言う事です。

巡回活動後、会員仲間と安全な一日であった事を確認し合つて帰宅します。寒暖厳しい季節でも子らの笑顔と挨拶に励まされ、無理をしない息の長い活動を目指し、明日もまた安全通学を願つて出勤します。

一枚の絵

速見郡 佐藤 公美

(大分県退職校長会「会報」第150号)

小さな画用紙に描かれた一枚の絵がある。緑色の風景の中に、一か所だけ赤いレンゲ畑がある。私が小学生の頃の作品であるが、偶然残ったこの一枚の絵は、私にとつてはちょっとした宝物なのだ。

小四の頃、私が廊下の窓からこの絵を描いていると、担任の先生が、「私は絵のことはあま

りよくわからないが、緑の中のこの赤い色は実に美しいなあ」とほめて下さったのだ。幼いなながらも、私はそういう意図で描いていたのでわかつてくれたことがとても嬉しかったのを覚えていいる。

絵に関してほめられた思い出がもう一つある。中二の夏休みに、家の近くで風景を描いている時、たまたま通りかかったよその中学校の先生が、私の絵をのぞき込み「この樹木がとてもいいね、情熱的な色がいい。」と、ほめて下さったのだ。情熱的な色。初めて聞くような言葉に胸がときめく思いがして、私は夢中でその絵を描き上げた。ほめられる、認められるという経験は、喜びと自信となつて、一生その人の心に住みつくものようだ。

私は現在もたった一つの趣味として、油絵の制作にはげんでいる。

忙しいことに感謝

鹿児島市 保岡 健一郎

(鹿児島県退職校長会

「会報」第169号)

最近、私は何故か忙しい思いに駆られている。といつても自分だけの思いこみであるが、月に二回のお達者クラブ、二日の抒情歌を歌う会、ボランティ

ア(アコーデオンをかついで)の二日、そして週二日の楽しく体力づくりをする会の、月14日にすぎないが、二日に一日は何かをやっている計算になる。この中のどれをとつても、私にとつては大切な日である。そして何よりも嬉しいことは、多くの新しい友人が出来たことである。

多種多様な職をもっていたこの友人たちの言辭や行動は、私の考え方を遙かに越えて、時とし

て戸惑いさえも抱くこともある。やはり世間は広い。わずかな空間で生活してきたという思いは持っていないが、今後は、この新しい友人たちとの触れ合いを大切にし、そして、楽しみ、そのことに「忙しい思い」を送ることに感謝する日々を送りたいと思う。

「継続は力なり」

長水支会 中村 芳人

(長野県退職校長会「会報」第115号)

退職して5年が過ぎようとしています。が、気楽になったことと年のせい、体力・筋力の衰えと体重の増加が目立ってきました。人間ドックでも、そのことを殊の外強調して注意されました。「これは大変」と一念発起して減量と筋力アップのために、ウォーキングと食事療法に取り組んで8ヶ月が経ちます。

この絵を描いていると、担任の先生が、「私は絵のことはあま

思えば現職中は、子どもたちや先生方には「何事も続けることが大切、『継続は力なり』だよ」なんて知ったかぶって強調してはいましたが、自らは何も継続した努力はありませんでした。そんな私だったので、当然説得力にも欠けていたことに気がつかされます。

さて、この8ヶ月間で目に見えた成果は減量です。3ヶ月ぐ

らいから体重計にのることが楽しくなりました。ウエストもどんどん細くなりました。ところが、筋力がついてきた実感はありません。減量は見えるのでいいのですが、見えない体力・筋力は伸びているのかどうか数値で測れないため、「衰えにはかなわないか」と諦めぎみでしたが、なんと6ヶ月過ぎ頃から皮膚の弛みが締まってきました。そうなる、毎日日課としていくことにさらなる意欲が出てきます。現在は「雪があるのでも

う止めたら……」という女房の制止も聞かず、続ける覚悟です。こんな些細なことでも、何事も「三日坊主」だった私には不思議なくらいうれしいことです。それと言うのも、続けることで自分に変化が生まれ、それを実感できることが意欲につながるのだと、この年になって感じています。

退職校長会の会合などで聞いた話ですが、「子ども見守り隊」として毎朝通学路に立っているけれど、子どもたちの元気な挨拶、声を聞くと、こっちは元気をもらえる」と言われます。私なんかがまねをしても、なかなか明るい挨拶が返ってきません。気が向いたときだけの見守り隊では、この先輩のようになるわけがないですよ。ここにも「継続は力なり」があるということを思い知らされます。「最近の子どもは挨拶もできない」なんて、大人の都合で判断して

はいけないことを教えられます。最近、OECDの学力調査の結果が報道されましたが、見える学力はすぐに評価でき、一喜一憂しますが、「学ぶ意欲が低い」という見えない力をどうのようにつけたらよいかと問題にしています。大きな課題ですし、現職中は決め手となる対策をしてこなかった自分ですが、見えない意欲の醸成も「子ども一人ひとりに学びの変化・変容を実感させてやれなかった自分がいる」と反省しきりです。



### や・す・ら・ら・ぎ

米子 福本 実雄

(鳥取県退職校長会「積雲」第76号)

ネルギーがいつぱい詰まった。柔らかく、みずみずしさに溢れた蕾や花茎を手摘みし、胡麻和えなどに。ほろ苦さとほのかな甘みを感じられ、味も食感も格別。

「私、『いま、学校にいるんだ！』って、何回も何回も感動したよー。」春始業式の日、明るく弾んだ声が、勤務する『やすらぎルーム』に響く。

学校からの帰り道、3月まで通室していた生徒が、立ち寄って来た。「いつ行くか？」通室生たちは、日々自問し、悩み苦しみながらも、厳しい冬を越え、エネルギーを溜め込み「今でしょ！」時機を見計らい、自己決定し、学校へ復帰していく。

菜園と言っても、住宅地の40個程のプランター。個々の野菜の快適な環境を見計らい、適材適所に配置。移動も、筋トレと思えば結構楽しい。

「みんなと修学旅行にも行き、

部活も頑張っています。」春風に乗って届く便りに、ホッとやすらぎを覚える。

種蒔栽培が基本の小規模菜園のオーナーは、子どもたちの成長と野菜の生長を喜びに楽しく暮らしている。

### 子ども達と茶道を

#### 楽しむ日々

坂井地区 吉澤 君子

(福井県退職校長会「碧窓」第80号)

月曜日の放課後。

「こんにちは。」と子ども達の元気な声が聞こえてきます。

「おかえり、鞆を下ろして手を洗いなさい。」小学生に茶道を教えるようになって5年目。

まずは美味しいお菓子と一服のお抹茶をいただきますが、ここで笑顔になれたらしめたものです。その後は、和室での歩き方や挨拶の仕方など、基本的な作

法を練習します。そして、お点前のお稽古へと移っていきます。最近では住宅事情も変わりました。畳のない家庭もあり、子ども達が戸惑うことも多々あります。子ども達が困ることのな

いよう、日本文化のすばらしさを話しているところです。木曜日、春江東小学校の茶道クラブに行く日です。和服に着替え帯を締めると、不思議なことに背筋が伸び心まで引き締まります。

小学校の多目的ホールには6枚の畳が敷かれ、簡易茶室が出来上がっています。茶花も飾られ、ポットのお湯も既に沸いています。黒板にはイラスト入りで、「茶道クラブ」と書かれています。

これらの準備は、全て子ども達が昼休みにしてくれているとの事。お茶のお稽古を楽しみに待ってくれる子ども達の心が伝わってきて、幸せを感じる瞬間

です。

クラブ開始5分前。子ども達が全員揃いました。正座をし、扇子を前に、「お願いします。」

簡易茶室が立派な茶室に変わります。お菓子に季節を感じ、服のお抹茶をいただきながら、日本文化の一つである茶道の楽しみを子ども達と共有していることを実感するのです。

### 18きつぷの旅

日高 玉置 秀夫

(和歌山県教友会々報

退職校・園長会)「教友」第168号)

退職後、時々、格安の「青春18きつぷ」を使って、鉄道の旅を楽しんでいる。

鉄道本や鉄道ブログを参考にしながら旅程を立て、天気を見ながら出かけている。始発の各停列車に乗り、夜は比較的遅い時刻まで列車の中で過ごす。列

車や駅名標や車窓風景を撮ったり、途中下車して興味のある場所を見物したり、撮影したりしている。

18きつぷの愛用者に、60〜70才代の人をよく見かける。その人達と鉄道情報を交換することが時々ある。すでに全路線を完了した人、全駅舎を撮った人、年間に100日以上乗車している人などもいた。

鉄道ファンの中には、運転席の後ろから前面や車窓をビデオカメラで撮り続けている人や走行音や車内アナウンスを集音マイクで録っている人もいた。今までに乗った路線で最も気に入ったのは、肥薩線である。

桜と菜の花で彩られた球磨川沿いの「川線」。ループ線とスィッチバックがあり、霧島連山の眺望がすばらしい「山線」。そして、古い木造の駅舎。体が衰えないうちに、多くの路線を乗車したいと思っている。